

名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2025 年 7 月 24 日

学部・学科名 世界教養学部・国際日本学科

担当教員氏名 近藤 行人

1. 区分	中期留学 ・ 語学研修 ・ 海外実習
2. プログラム名称	ハノイ国家大学外国語大学日本語教育実習
3. 渡航先国名	ベトナム
4. 派遣期間	2025 年 2 月 23 日 (月) ～ 2025 年 3 月 8 日 (金) 14 日間
5. 派遣先教育機関名	ハノイ国家大学外国語大学
6. 参加学生数	3 名 (金) 約 2 週間
7. 派遣目的	ハノイ国家大学外国語大学 (以下, ULIS) 学生を対象として, 日本語授業の見学, 現地での教壇実習を実施し, あわせて, 異文化体験や ULIS 学生との交流の機会をもつ。
8. 派遣内容	① 事前指導 : 教壇実習で担当する予定の教授内容につき, 授業計画立案, 教案作成等を行い, 指導を受ける。 ② 授業見学 : ULIS における日本語授業 ③ 教案指導 : ULIS 教員による教案指導を受ける ④ 教壇実習実習 : ULIS 日本語学科の授業において, 各実習生あたり 4 コマ分の教壇実習を行う。実習に先立って ULIS 教員による教案指導を受け, 実習後に批評・助言を受ける。 ④ 異文化体験 : ULIS 学生との交流 ⑤ 技能実習生送り出し機関の見学と交流 ⑥ 実習報告書の作成

9. 成果	・教育実習の実施（授業見学、授業の実施、振り返り） 中級クラスの技能別クラス（「聴解」「会話」「読解」）において、実習生はそれぞれ3コマの実習を行った。実習生は自らの実現したい教育を目指した授業設計を目標に日本語授業を実施した。 ・ベトナム人学生との交流の実施 学内外において ULIS 学生との交流の機会を持った。 ・VEJ 協力国際株式会社の見学 技能実習生送り出し等の業務に携わる機関である VEJ を訪問し、寮生活や送り出しまでの期間の生活の様子を見学した。また、クラスに入り、学生と交流した。 ・報告書の完成 実習を通して学んだこと等をまとめ、報告書を作成した。
10. 備考	

以上

開講式 報告書

【開講式の日付】2025年2月24日（月）

開催場所 ハノイ国家大学・外国語大学日本語言語文化学部

参加者

- 名古屋外国語大学 **先生、実習生3名
- ハノイ国家大学・外国語大学 **副学長、日本語言語文化学部**学部長、**先生、**先生、**先生、5名のチューター学生
- 武蔵野大学 **先生、実習生2名

【開講式の流れ】

1. ハノイ国家大学・外国語大学の**副学長からの挨拶で、名古屋外国語大学、武蔵野大学から来た先生と実習生に歓迎の意を表された。
2. ハノイ国家大学・外国語大学・日本語言語文化学部の**学部長から名古屋外国語大学、武蔵野大学から来た先生と実習生に歓迎の意を表した。
3. 名古屋外国語大学の**先生、武蔵野大学の**先生から挨拶があり、実習生への今回の実習に対する期待を述べられた。
4. 名古屋外国語大学からの3名の実習生と武蔵野大学からの2名の実習生も自己紹介をし、実習への期待と意気込みを述べた。
5. 5名の現地学生からなるチューターから自己紹介があった。
6. 挨拶が終わると、ハノイ国家大学・外国語大学の成り立ちや日本語教育に関する紹介を受け、ハノイ国家大学・外国語大学への理解が深まった。
7. ハノイ国家大学・外国語大学から、今夏の実習プログラムに関して、説明や確認を行い、担当してくださる先生の紹介も行われた。
8. 最後に皆で記念撮影を行い開講式は終わった。

【まとめ】

この開講式ではハノイ国家大学・外国語大学と名古屋外国語大学の先生方、実習生チューターとの交流に加え、武蔵野大学の先生、実習生との交流が行われた。それぞれ今回の実習プログラムに対する意気込みや期待について共有し、ハノイ国家大学・外国語大学とはより一層関係が深まり、武蔵野大学とも新しく交流が生まれ、教育実習に向けて良いスタートとなった。

VJEC 見学報告

2月27日に技能実習生の送り出しに関わる機関である、VJECを見学した。VJECは、経験豊富で語学力に優れた日本人・ベトナム人講師や社員が指導にあたる人材送出機関で、これまでに1,000人以上の労働者を日本や台湾へ送り出してきた実績がある。ベトナムの若者に対して、日本語の指導だけでなく、日本での就労や生活に必要な知識やマナーを身につけるための総合教育を渡日前に行っている。

今回我々が見学したのは、ハノイ市リエン区にある機関だ。大きな門と塀に囲まれた黄色の建物で、そこではベトナム人の若者たちが共同生活を送りながら、日本語や日本文化やマナーを学んでいた。

始めに会議室に通され、機関の概要を伺った。印象的だったのは、「ベトナム人を技能実習生として日本に送り出したあと、定期的にビデオ通話を通して相談に乗っている」という説明のあと、案内してくれた日本人教師が「見張りみたいなものです」と付け加えていたことだ。技能実習生制度に関する問題は、やはり深刻だと感じた。

その後、授業を見せてもらった。教室には学習者が20人ほどいて、教師の発話に続き「コーヒーとお茶とどちらがおいしいですか」「春と冬どちらが好きですか」と大きな声で練習していた。我々の見学があったからかもしれないが、少し驚くほどの元気さであった。

隣の教室で、実習生と学習者がグループになって会話の練習をした。質問リストをもらったので、「あなたの名前はなんですか」「あなたの国はどこですか」という基本的な質問をしたが、中には「あなた、名前、あなたの名前、あなたの名前はなんですか」とジェスチャーを交えて何度も聞かないと答えられない学習者もいた。机間巡視をしていた教師が「彼女たちはN5もできません」と話していた。年齢層は幅広く、私がいたグループでは一番若い学習者が19歳で、上は32歳までいた。日本に行くのが楽しみか、と尋ねると、皆一様に日本での生活を心待ちにしているようだった。彼らは、途中からグループにやって来た、2ヶ月後に愛知県岡崎市へ行くという先輩学習者を尊敬している様子だった。19歳の学習者はかなりの初級者だった。しかし、日本語を使って私に質問をしてくれて、ベトナム料理の話や名古屋の観光名所の話をして楽しい時間を過ごすことができた。

その後、ゲーム的な活動として「糸巻きの歌」に合わせて「ぱびゅぺぼ」や「ざじゅぞ」など困難な発音の練習をした。その際の盛り上がりは凄まじく、学習者の無邪気な様子はハノイ大学の学生との違いを感じさせた。

給食の時間の後に、寮の中を見せてもらった。1階から4階までの踊り場には格子がはめられたゲートがあり、夜間は他の階に行き来できないようになっていた。2段ベッドが2つ並んだ部屋は少し暗く、軍隊式に畳まれた布団は薄かった。共用の廊下や階段には日本語で書かれた「ゴミ出しのルール」のポスターが貼られており、学習者が、この送り出し機関で

の生活を通じて、日本語だけでなく日本での生活やマナーについても学んでいることが伝わってきた。

特にそれを感じたのは、学習者たちが、案内してくれた現地の日本人教師や見学に来た我々とすれ違った際に、足を止め、丁寧に「おはようございます」と頭を下げたときだ。

彼らが技能実習生としてこれから日本で生活していくために、日本の会社では必要になってくるであろう「日本式」の礼儀を身につける必要があるのだろう。

技能実習生送り出しを行っている VJEC のベトナム人日本語学習者は、終始、丁寧に礼儀正しく、そして無邪気だった。

交流会

交流会日時：2025 年 3 月 4 日（火）

場所：ハノイ国家大学外国語大学 B3 棟 205 号室

参加者：**先生、名古屋外国語大学・武蔵野大学の実習生、ハノイ国家大学外国語大学日本語言語文化学部 2 年生

授業内容：「都会と田舎、どちらに住みたいですか」を中心とした発表・意見交換

私たちは、2025 年 2 月 23 日から 3 月 7 日にかけてハノイ国家大学外国語大学での日本語教育実習に参加していた。そのなか、3 月 4 日に開かれたベトナム人の日本語を専攻とする学生さんたちとの交流会に参加し、色々お話が出来て、ベトナム人の学生さんたちの日本語に対する熱情を身をもって感じた。次は、交流会について報告する。

交流会の流れとして、大まかに二つの部分に分けることができ、前半は、私たち実習生があらかじめ分けられた学生さんたちのグループに入り、設定されたテーマをめぐって交流し、そして、交流し、まとめた内容をベトナム人の学生さんたちに発表してもらうことになっていた。そこで、各グループの発表内容に対して、私たち実習生も感想やコメントなどを行うことで交流していた。テーマは、「都会と田舎、どちらに住みたいですか。」であり、おそらく、読解授業で使われるテキストから抜き出した内容であると考えられる。後半は、テーマなしの自由会話であり、学生さんたちと、趣味や日本語勉強のきっかけ、ベトナムの美味しい食べ物、伝統文化などについて色々話してきた。

交流会は、全体としてまとめていえば、発表会と自由会話からなっていた

そこで、非常に印象に残ったことについて、二つ取り上げて説明する。

一つ目は、学生さんたちの日本語に対する情熱である。

もともと、ベトナムに行く前は、ベトナム人の学生さんたちがどちらかと言うと、より静かなイメージであったが、実際に色々話していた時は、非常に積極的であって、日本語の会話も想像以上できていた。また、一般的に交流会で取り上げられる遊びなどの話題のほかに、日本語の勉強方法や JLPT の対策などについても色々話してきて、そこから、日本語学習に対する熱意を感じ取ることができた。

二つ目は、交流会のテーマである。テーマが学校生活や趣味などの比較的のんびりしたものではなく、より現実社会に目を向けるテーマであった。

「都会と田舎、どちらに住みたいですか。」という質問に答えてから、その理由も言わなければならない。都会には住みたくないのなら、その理由が求められる。そこから、色々な社会問題に関わっており、例えば、環境汚染や交通渋滞、就職活動、都市化などの話が持ち出されてきた。日本語で社会を考えるということは、日本語力を鍛えるだけでなく、社会への責任意識を培うことも可能であると思われる。

交流会において、現地のベトナム人の学生さんたちと色々話し合うことが出来て非常に良かったと思っており、皆さんの日本語に対する熱意を知り、日本語教育に携わる私たち実習生もやりがいを感じることができ、また、ベトナムにおける日本語学習で扱われる素材の内容を知り、これから、学習者に向けてどのような内容の教材を採用するか、教材の内容の選択ということも深く考える必要があると感じた。

修了式

修了式日時 2025 年 3 月 7 日

開催場所 ハノイ国家大学・外国語大学日本語言語文化学部

参加者

- 名古屋外国語大学 **先生（オンライン参加）、**先生（オンライン参加）、実習生 3 名
- ハノイ国家大学・外国語大学 **副学長、日本語言語文化学部**学部長、**先生、**先生、**先生、4 名のチューター、学生
- 武蔵野大学 **先生（オンライン参加）、**先生（オンライン参加）、実習生 2 名

修了式の流れ

1. 初めにハノイ国家大学・外国語大学・日本語言語文化学部**副学部長から終わりの言葉をいただき、実習生へのねぎらいの言葉をいただいた。
2. 名古屋外国語大学の**先生から実習を受け入れてくださったハノイ国家大学・外国語大学への感謝の言葉と実習生の成長について期待を述べられた。
3. 武蔵野大学の**先生からも実習を受け入れてくださったハノイ国家大学・外国語大学への感謝の言葉と共にハノイ国家大学・外国語大学との長年の関係についても感謝を述べられた。
4. ハノイ国家大学・外国語大学・日本語言語文化学部**副学部長から実習生に対し、修了証明書が授与された。
5. 名古屋外国語大学、武蔵野大学、合わせて 5 名の実習生たちによるプレゼンテーションを行い、それぞれ実習に対する反省点や成功した点、ハノイでの思い出を発表し、実習を振り返った。
6. **先生より教壇実習のご講評をいただき、実習生は各々の反省点を振り返り、今後に生かせるよう、熱心に聞いていた。
7. 最後に皆で記念写真を撮影し、修了式は終了した。

【まとめ】

この修了式において、実習生はハノイ国家大学・外国語大学の先生方からのご講評から多くの反省点、改善点を見つけた。また、プレゼンテーションにおいて、この実習プログラム全体を振り返り、教壇実習で学んだことに限らず、ベトナムの文化や歴史について学んだことを再度確認した。実習生は今回の実習プログラムで学んだことを今後に活かしていきたい。